

一 対象 小学校 低学年

二 主題名 自分の生命を守る

三 ねらい

生きる喜びにふれ、生命を大切にしようとする心情を育てる。

(3) (1)

四 発達の段階と資料の特質

小学校低学年の児童は、自然の大切さについて学習したり、自然体験活動などを行ったりしているが、自然災害の恐ろしさを意識していることは少ない。また、ゲーム等で、簡単に生や死に関する擬似的場面を目にすることが多いが、生命の尊さについて自覚する機会は少ない。そのため、自然災害に遭遇した生き物の行動や主人公の心情に目を向けさせることで、「生命を大切にする」という事例にふれさせるようにしたい。

本資料は、新燃岳の麓の町で暮らす主人公が、新燃岳の噴火に見舞われながらも身を守った野鳥「めじろ」の行動を見つめることを通して、自然災害に対し、生命を守るために大切にしたいことを考えるという内容である。主人公の心情の変化を感じることができるように、生命を大切にしようとする心情を育てることができると期待される。

五 展開例

- 1 新燃岳の噴火のことについて知っていることを話し合う。
- 2 資料「しんもえだけ」を読んで、話し合う。
- (1) 新燃岳が噴火し、噴石や灰が降る中、主人公「こうた」は、「めじろ」に対してどんな気持ちだったでしょう。
- (2) 「めじろ」が、ヘルメットの中から、元気な顔を見せたとき、主人公「こうた」は、どんな気持ちだったでしょう。
- (3) 学校で、ヘルメットを被せてもらったとき、主人公「こうた」は、どんなことを考えたでしょう。
- 3 生きる喜びを感じたことなどを紹介し合った上で、自然災害に対する心構えや対応を話し合う。
- 4 新燃岳の噴火を体験した子どもたちが書いた作文（新燃岳噴火 百人の記録）から、自然災害から命を守るうとする作品について教師の朗読を聞く。

六 指導上の留意点

新燃岳噴火の恐ろしさのみが強調されるのではなく、日常生活における自然災害にもふれるようにし、人々が、自らの生命を守るため、尽力していることに価値を見いだしたい。心のノート「みんな みんな 生きて いるよ」のページをもとに、生命を守る大切さを感じた経験等を話し合うこともできる。

七 参考資料等

「新燃岳噴火 百人の記録」（高原町教育委員会）